

# 奈良教育大学附属小学校 の教育課程と教育実践

川地亜弥子（神戸大学）  
2024/6/30（日）

1

## 研究領域と主な研究テーマ

教育方法学

「リアリズム・ヒューマニズム・ロマンチズム」

（田中耕治『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣、2019年、pp.2-4）

生活綴方実践における生活と表現（と読み合いの授業）

...日本の教育実践の源流

※ 教育実践...「教育を行う教師こそが、教育と研究を行う主体」という考えを含んだ言葉。

Cf. 「教育の実際」

## 子どもとの関係 「2つのリアリズム」

- ・「子どもたちが、自然や社会をふくめた現実の世界ととっくんで、生きた姿をつかみとり、真実なものをえがきつづけていくリアリズムと、高い世界観を把握している教師が、あるがままの子どもの『わたくし』＝『魂のありかた』を、すなおにつかんで、愛情と知性に富んだ、飛躍のない指導をしていく周到なリアリズム的教育過程と、この両方があるときにこそ、教育としての綴方のしごとは完全なものになるであろう」。（国分一太郎『新しい綴方教室』新評論社、1957年、p.123）

## 教科教育

4

## 楽しくて、自分の変化が実感できる授業

・2年生 体育 鉄棒  
お互いに学びあって、やってみる。  
「**ちからをぬいて、ばんざいして ゆれたら**  
できたから、うれしかったです」  
…実感(感覚の世界)をことばにする。

・5年生 理科 溶解  
「なんかだんだん『とける』ってどんなことかわからなくなってきた」  
5時間目「**溶けて見えない(消えた)**のに水がなくなれば塩が残るのか  
不思議。塩は**溶けてない**のかな」  
6・7時間目を経て、「**とけたのに本当は水の中において…消えて水と一  
緒になったのにおかしい**」

…教師の分析「学習を積み上げることによって、  
**目に見えない物が思考の中で立ち上がっている**ようにも思えます」

子どもの表現をもとに思い・  
理解・発達をつかむ

5

## 6年間を見通した教育課程

- ・子どもの具体的な学びの姿をくぐって構想  
(例)算数科 学習内容の質の変化を  
「**手に持つことのできる算数**」  
「**手に持てない算数**」

6

## 教科外教育

7

### 『みんなのねがいでつくる学校』

- ・5年生の体育大会の種目決め  
話し合いのとき：リレー派が圧倒的  
投票：大縄と僅差でリレーに決定。  
リレー派の子どもたちが納得がいかなかった。  
リレーに決まればよいのではない。  
なぜ「大縄がいい」という意見も「リレーに反  
対」という意見もほとんど出なかったのかを問題  
にしている。

・教師が意図して課題を設定する特別活動（行事や児童会活動等）  
・子ども集団だけの自由な時間（休み時間）  
その両方が重要であることにも言及

## 子どものねがいを 子どもとともに

9

## りえさん

「んじゃ受験せんとく。」

声がふるえました。

本当に一言言うのに、こんなにきんちょうするんやと思いました。でも、その瞬間肩や背中が軽くなって、「いつもの自分」に戻れた感じがしました。

やっぱり気づかないうちにしんどくなって、元気がなくなっていつて。そういうふうになるんだと思いました。

...自分の思いを見つめ、何に価値をおき、どう生きるかを定めることは簡単なことではない。あらかじめ「めあて」をたてて、追求できるようなものではない。

10

## 学習指導要領から見て 「不適切」なのか？

情報開示された文書を読み解く

11

## 学習指導要領は大綱的基準であり、 学校の創意工夫を重視している。

- 教育課程の編成を行う主体は学校
- 学習指導要領は、大綱的基準  
(細部にわたって規定するものではない。)
- 学習指導要領に「各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくこと」が明記されている。
- 「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」  
「児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」...学習指導要領に示された観点。

12

## 報告書の変化

道徳教育に注目すると...

13

### 「奈良教育大学付属小学校に関する調査結果（中間報告）」（2023年9月6日）の「基礎報告書」

「道徳科の教育活動として、毎時、全校集会という形で教科用図書の指導に拘らない多種多様な価値探求が行われている。（中略）教室での授業は年間10時間程度とのことであるが、**その中で可能な限り幅広い価値項目を網羅的に取り扱えるよう、適正な読み物教材を選択するなど、教科用図書の効果的な使用が一定程度図られている。**とはいえ、使用頻度の少なさゆえに、教科用図書の活用について改善の余地が多分にある。」（次ページへ）

14

### 「奈良教育大学付属小学校に関する調査結果（中間報告）」（2023年9月6日）の「基礎報告書」

「実地調査を踏まえての私見であるが、全校集会において、児童は様々な言語活動を通して、**「友情、信頼」や「相互理解、寛容」などの道徳的価値に触れることができていた。**その意味で、教科書等の読み物教材を用いた通例の道徳授業と趣を異にするものの、上記の教育活動は**道徳性発達を促す機会として十分な効果を発揮している**と言える。こうした従来の取り組みを生かしつつ、多様な活動を通して形成されつつある価値認識を深化・統合する手段として、今後、教科用図書の積極的な活用が望まれる。」（「中間報告」別紙p.24）。

15

### 「奈良教育大学附属小学校における業務改善について（業務改善指示）」（9月29日）

- ・1ページ目末尾には、「本文書及び今後の改善の進捗については、文部科学省への報告が求められていることを申し添える」とある。
- ・「教育課程の適正な実施及び学習指導要領との整合性」に関しては、「現時点のまま進行すると、令和5年度において学習指導要領に示された内容が満たされず法令違反となる（後略）」（p.7）との記述があり、学習指導要領で示された内容をそのまま実施しなくては「法令違反」となるという見解が示されている。

16

## 「奈良教育大学附属小学校における業務改善について（業務改善指示）」（9月29日）

- 「全体としては、①教科書を開かせる機会が、全体として少ない傾向はあるものの、②主たる教科用図書の使用実態については、**法令違反に当たるような大きな問題はない**との評価が妥当であると考えられる。なお、教科用図書の使用基準が明確でないため、何を以て『適切な使用』とするのかという点に関する明確な判断基準が必要であったことが伺われる」（p.8）

17

## 基礎報告書（最終）※提出日記載なし

- 「全校集会の形で道徳を行う場合は、学習指導要領において**学年ごとに書き分けられている内容が、それぞれの学年で指導されているかを客観的に説明できるか**」（突如）確認事項として挙げられていた（書類のフォーマットに掲載されていたと思われる）。

18

## 基礎報告書（最終）

- （中間報告ですでに）各学習活動と学習指導要領第3章（特別の教科道徳）の4つの内容領域との関連を確認した。
- 年間指導計画から、各主題は複数の学習活動（単元）によって構成されていることを確認した。
- これらの**学習活動（単元）の一つひとつについて、主題全体のねらい（重点価値）の下に、個別の内容項目が設定されていることを確認した。**

19

## 基礎報告書（最終）

- **全校集会の実施後、そのつど各学級において、意見交換や活動の反省など発達段階に応じた個別の取り組みがなされていた。**根拠資料として、単元「戦争のこわさをしろう」等によって取り組まれた課題（手紙や作文など）が1～6年生を通して示された。これらを比較し、**学習内容の違いや児童の取り組みの多様性がわかり、学年段階ごとの指導の要点を意識した指導が学級ごとになされていることを確認した。**

…以上より、「教育課程が学習指導要領に基づいて実施されていると判断できる」「学習指導要領において学年ごとに書き分けられている内容項目が、それぞれの学年で指導されていると言える」と結論付けている。

20

## なぜ「不適切」の判断になるのか？

- 「前提」文... (前略) 「道徳」の授業は、時間割において「全校集会」と表記され、児童・保護者に向けて道徳として明示されてこなかった。このような現状に鑑み、付属小学校で行われてきた「道徳」の授業時間数を、「特別の教科である道徳」として計上することはできない。  
したがって、以下(※先ほど紹介した内容)の報告は、「特別の教科である道徳」の教育課程が**実施されていないという事実を前提としたものである。ただし、全校集会における指導が、道徳教育を意図してなされていることもまた事実**である。
- まとめ部分... 活動が道徳的価値の探求につながっていくという見通しをもち、児童に対してこれらの価値を学習の目標として明確に示し、意義づける必要がある。実地調査で確認した限りでは、**児童に対する意識付けがなされていなかった**。このため、**総体的に見て「特別の教科である道徳」の教育課程が適正に実施されているとは言い難く、抜本的な改善が求められる。**

21

## 担当者も苦悩...？

- 子どもたちが真摯に話し合い、活動に取り組む過程では迷いや試行錯誤は当然のことであり、真剣に悩むときに「〇〇の価値を探究しているのだ」という明示や意義付けが有効とは限らない(子どもたちの自由で多面的な思考の邪魔になることすらある)。
- 信頼できるなかまや先生と共に、追求する(できる)からこそ、簡単にはわからない問いを深め、納得する、腑に落ちる、実感をもって理解するということが起きるのではないか。  
...子どものリアリズムと教師のリアリズム
- このことは、調査担当者もよくわかっていたのではないか。(だからこそ、前提文が必要だったのではないか。)

22

## (補 理科について)

- 道徳に対して要求された、「学年ごとに書き分けられている内容が、それぞれの学年で指導されているか」が、他の教科(特に理科)に大きな影響を及ぼしたのではないか。(理科は、中間報告において、「基礎報告書(中間)」でも「同(最終)」でも、年間授業時数の不足なし、指導内容の不足なし、学習評価も適切実施と報告。ところが「附属小学校実態調査最終報告案(12月13日調査委員会資料)」で、「学習指導要領記載の配当学年と異なる学年の指導」(p.9)が出現し、そこに学年間の単元移行表が記された。最終的に、1月発表の「最終報告書」でも、不適切とされた。

23

## なかまへの信頼に開かれた 実践記録を読み、 語り合きましょう！



ネットニュースだけではわからない  
子どもを  
主人公にした

奈良教育大学附属小学校の

**豊かな  
教育**

著者/監修 原田 博道  
挿絵/監修 川地 亜弥子

学 校  
つ ぐ  
ね が  
み ん  
な の  
こ ろ  
を  
つ づ  
け  
て  
い  
く



奈良教育大学  
付属小学校  
川地 亜弥子 著

子どもための学びを追求しよう 教育を続けることばをたずねて  
社会への期待とそれを可能にする教育の深められし。子ども、教師、教育関係者の心はここに集まる。学校本来の役割とは何か。なかまへの信頼の中で、答えだけを教われないでほしい。子ども自身の内なる成長・発達への追求にせまり、育てる者もつづき。



クワイエツキョウ 101-0382 奈良教育大学附属小学校 TEL:074-614741 FAX:074-6934605 http://www.nies.ac.jp www.nies-nara.ac.jp